

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	努力を惜しまない子どもを育て、ルールを守り、友達と協力し、	<ul style="list-style-type: none"> ・連携者会議の開催 ・中学校ブロック合同授業研(12/6 中学校ブロック連携の日) ★ブロック内の幼小中の研究授業に積極的に参加する ・連携教員による取組み ★出前授業 ・天中ブロックスタンダードの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・H29の取組みの継続 ・中学校ブロック合同授業研の開催 ・連携カリキュラムの再確認 ・連携教員による取組み ★出前授業 ★英語授業の引継ぎ ・天中ブロックスタンダードの作成準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30の取組みの継続 ・中学校ブロック合同授業研の開催 ・連携カリキュラムの再確認 ・連携教員による取組み ★出前授業 ★外国語授業づくり研究会の開催 ・天中ブロックスタンダードの実施
確かな学力の育成	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や教材の工夫。 ・書くことを重視。 ・話し合い活動の充実。 ・人の話しを目で聴く態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のふりかえりの徹底。 ・メモを取る力を育てる。 ・能動的学習の実施。 ・教師間での授業参観・授業交流の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究授業の充実。 ・教科の特性に応じて、生徒が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修への転換及び定着。 ・見通しを持たせ、全ての生徒が意欲的に授業参加できる。
豊かな人間性を育む	個性を尊重して行動できる生徒集団の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、互いに高め合い人間としての生き方や命の尊さについて深く考える集団を育てる。 ・一人ひとりの個性を認め合う集団を育成し、寛容と思いやりの心を育てる。 ・自分や仲間を大切にし、ともに成長できる学年集団を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、互いに高め合い人間としての生き方や命の尊さについて深く考える集団を高める。 ・一人ひとりの個性を認め合う集団を育成し、寛容と思いやりの心を高める。 ・自分や仲間を大切にし、ともに成長できる学年集団を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりを大切にし、互いに高め合い人間としての生き方や命の尊さについて深く考える集団を確立する。 ・一人ひとりの個性を認め合う集団を育成し、寛容と思いやりの心を確立する。 ・自分や仲間を大切にし、ともに成長できる学年集団を確立する。
健康・体力の増進	体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な活動 ・活動的で協同的な取組み ・集団行動の取組みの模索・検討 ・体力づくりの重要性の啓発 ・補強運動の充実化 ・教師の指導力向上 ・運動機会の確保 ・体育的行事の模索・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度の取組みの継続 ・集団行動の取組みの充実化 ・補強運動の充実化 ・運動機会の確保 ・体育的行事の充実化 	<ul style="list-style-type: none"> ・H30年度の取組みの継続 ・集団行動の充実化 ・継続した体力作り(補強運動の充実化) ・運動機会の確保 ・体育的行事の充実化
支援教育の充実				

2 今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

国語

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
おおむね良好な結果であった。
- ② 書くこと
おおむね良好な結果であった。
- ③ 読むこと
おおむね良好な結果であった。
- ④ 言語事項
おおむね良好な結果であった。

(問題形式)

- ① 選択式
おおむね良好な結果であった。
- ② 短答式
おおむね良好な結果であった。
- ③ 記述式
おおむね良好な結果であった。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

選択式、短答式に比べて、記述式になると、正答率が低下する傾向にある。内容理解や読解の力をつけるとともに、きちんと意見が伝わるように表現する力をつけていく必要がある。

分析

国語の各観点においては、ほぼ全国平均、もしくは全国平均より、少し下回る。授業や読書の中で、文章を読む力は概ねついてきている。的確に読み取る力をさらにつけていきたい。また、書く力においては、読み手に伝わるようにテーマに沿って文章を書くことが、いま一つである。あらゆる機会を通して、文章を書くことに取り組みたい。

○●数学●○

数学

(領域ごと)

①数と式

おおむね良好な結果であった。

②図形

おおむね良好な結果であった。

③関数

おおむね良好な結果であった。

④資料の活用

おおむね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

おおむね良好な結果であった。

②短答式

おおむね良好な結果であった。

③記述式

おおむね良好な結果であった。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

分析

数学的スキルについては正答率が高かった。今回は連立方程式・確率・反比例の内容での出題であったが、基本のパターンで考える問題に関しては定着率が高いように思われる。ただ、知識理解・見方考え方の出題に関しては全国平均を下回っている。「選択式」でも平均を下回っているため、基本的な知識内容があいまいになっていたり、根本的事象を考える姿勢がまだ定着しきれていないことが予想される。また、「記述式」も全国平均を下回っていることから、答えの根拠を探ることや、未知の内容を自分で考えて表す力がやや不足しているように思われる。

単純な計算やパターンの定着は高まってきているようなので、それを日常的な題材に活かしたり、意見を表現するといった“アウトプットしていく力”を伸ばしていきたい。

英語

(領域ごと)

①聞くこと

おおむね良好な結果であった。

②話すこと

おおむね良好な結果であった。

③読むこと

おおむね良好な結果であった。

④書くこと

おおむね良好な結果であった。

(問題形式)

①選択式

おおむね良好な結果であった。

②短答式

おおむね良好な結果であった。

③記述式

おおむね良好な結果であった。

(無解答率)

おおむね良好な結果であった。

(その他)

全体的におおむね良好な結果であったが、領域「聞くこと」と形式「記述式」のポイントが全国平均より下回っている。

分析

平均正答率は全国平均や大阪平均を、少し上回る結果となった。それは、わが校は下位層の生徒の割合が全国よりも低く、その分中間層の割合が高いことが要因である。また、10番以外の問いにおける無解答率が全国平均よりも下回っている。「分からないけど何かは答えよう」という姿勢が全体的に見られた。

わが校の正答率が全国平均よりも高い問いは、主に5・7・8・9番で、5・7・8番は領域『読むこと』、9番は『書くこと(短答式)』である。このことから、正しく内容を読み取ることができることや、短答式での記述解答をすることができる生徒が比較的多いことが分かる。

一方で、正答率が全国平均よりも低い問いは、主に放送問題(1～4番)、領域『聞くこと』である。無解答率が4番以外0.0%であるにも関わらず正答率が全国平均より低いことから、英語を正しく聞き取ることが苦手な生徒が比較的多いということが分かる。また、領域『書くこと』の正答率は全国よりも上回っているが、10番の無解答率の多さや正答率の低さから、問題形式『記述式』の正答率も全国より低い。上記の話も含め、これらのことから、短答式の記述で答えることはできるが、与えられたテーマについて考えを整理し、文法的に正しく内容的にまとまりのある文章を書くことが難しい生徒が比較的多いことが分かる。

以上より、普段の授業からリスニング能力を試し、鍛えるような内容を展開して『聞くこと』の能力を伸ばしつつ、日記などのまとまった文章を書くような課題を設けて『書くこと(記述式)』の能力を伸ばしていきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

無解答率は数学が全国比より少し高い結果となったこともあり、経年でみると増加傾向である。

また、国語・数学の平均正答率に関しても全国比に対してやや下回る結果となり、下降傾向である。

この結果から、難解な問に対して解くことを途中で諦めてしまう、基礎学力定着のための継続性のある家庭学習が乏しいなどの傾向があることがわかる。自発的な学習意欲向上の為の取組みをより工夫し、導入していく必要がある。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分

析

学力高位層においては、昨年よりも減少する結果になった。中間層については昨年よりも増加している。学力低位層については昨年同様、全国比を上回る結果になった。中間層は昨年から比べ微増したが、全体的には下降しており、学習内容の定着という点ではやや物足りない。テスト前の学習会への参加率の向上や、日常の授業や課題を大切にさせて、低位層や中間層のより一層の底上げが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

○「チャイムと同時に授業開始」を徹底する。

教師がチャイムが鳴ると同時に授業を開始する習慣をつける。

その一方で、授業終了のチャイムが鳴った時点ですぐに授業を終わる。

成果

- ・授業の開始・終了をはっきりさせてメリハリをつけることができる。

○朝読に対する指導

「朝の読書」において4つの原則を守らせる。

- ①全員で読む(担任も)
- ②毎日読む(習慣をつける)
- ③好きな本を読む
- ④ただ読むだけ。

成果

- ・朝の読書の続きをそれ以外の時間に読むようになった。
- ・遅刻や欠席の生徒の数が減少する。
- ・朝の1時限目の授業が静かに落ち着いて開始できる。

○学習会の実施

定期考査の際に実施。

成果

・少人数での取組みになっているため、普段質問できない生徒も積極的に聞くことができ学習意欲向上につながっている。

○学習の手引きの活用

年度当初に各教科より配布。

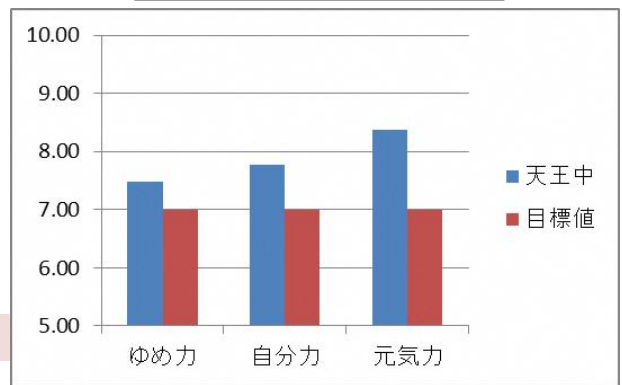
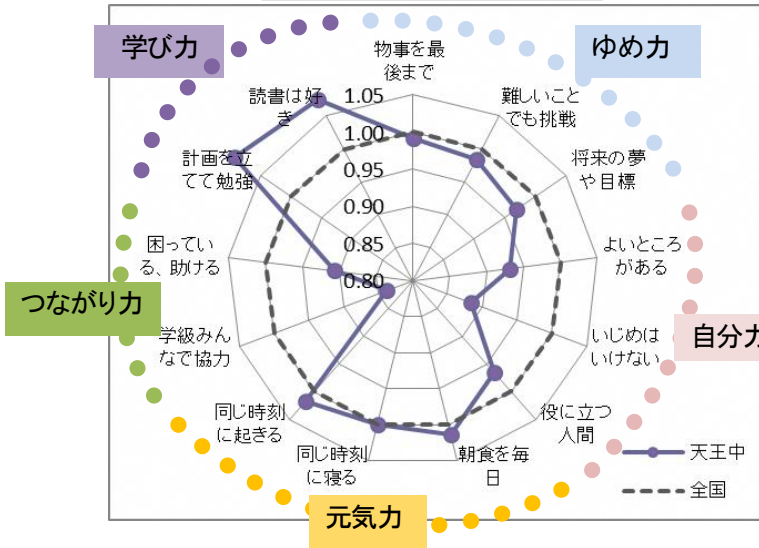
成果

・授業の受け方、評価の仕方、家庭学習の仕方を提示することで各教科の学習に見通しが持て、学習意欲の定着につながっている。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国との比較

5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

ゆめ力(将来展望を持ち、努力できる力)

→ “難しいことでも挑戦”、“将来の夢や目標がある”が全国比を下回る結果になり気がかりである。日々の学習が未来に向かっていくと、将来の自分を作っているという実感を感じられるような取組みが必要である。

自分力(規範意識を持ち、自分をコントロールできる力)

→自分力 “よいところがある” “いじめはいけない” “役に立つ人間になりたい” という何れにおいても全国比を下回った。中でも、いじめに対する正義感が希薄なようで全国比を大きく下回った。加えて、自尊心が低く、まわりに貢献したいという前向きな気持ちも少ない傾向にあることがわかった。

元気力(規則正しい生活を送る力)

→何れにおいても全国比を上回った。早寝早起き朝ごはんの生活リズムがしっかりできている生徒が多いことがわかった。

つながり力(他者を尊重し、積極的に人間関係を築こうとする力)

→つながり力 “困っている、助ける” “学級みんなで協力” という何れにおいても全国比を大きく下回った。自分力の低さとリンクしているように感じる。困っている人を助ける、協力すべき時に協力するといった人として求められる行動がとれていない現状がある。

学び力(学校の授業等で、意欲的に学ぶ力)

→今回5つの力のうち、最も全国比を上回る結果となった。定期テスト前の計画表作成、日常の朝読書の取り組みが定着し、良い影響を与えていることが浮彫になった。この結果に甘んじず、日々の授業実践において、興味関心が沸くような魅力的な授業づくりを実践していく必要がある。

取組み

ゆめ力→現行の「職業聞き取り学習」や「職場体験」などキャリア学習の継続。

日々の授業において、自分の将来像が描けるような教材開発を行う。

自分力→学級役員や教科係など自分の役割を自覚させ、行動を起こしていくことで、周りから認められる経験を数多く体験させる。

元気力→引き続き早寝早起き朝ごはん登校できるよう保護者に協力してもらう。

つながり力→他者に関心を持ち、人と人とのつながりをより感じられるような取組みを行う。

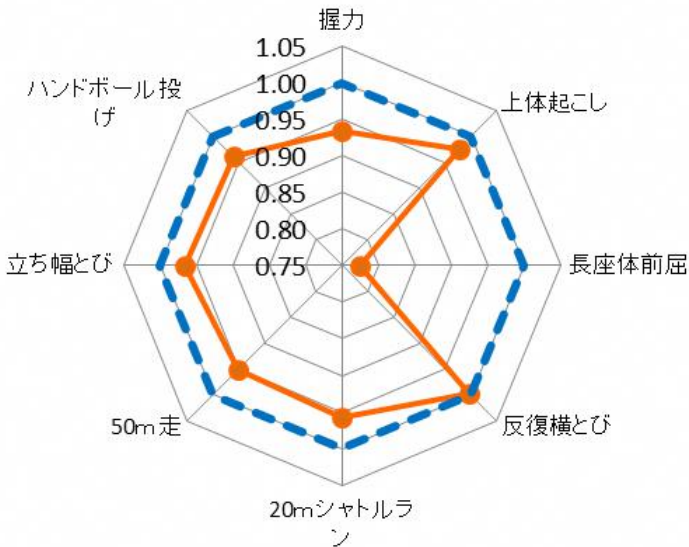
修学旅行・校外学習、体育大会、天フェス、クラスマッチ等行事ごとの充実。

学び力→「魅力ある授業づくり」(グループ学習・基礎・基本の徹底)を推し進める。引き続き朝読書を徹底し、本を毎日読む習慣をつける。図書委員からの本の紹介など充実した読書の時間を設ける。

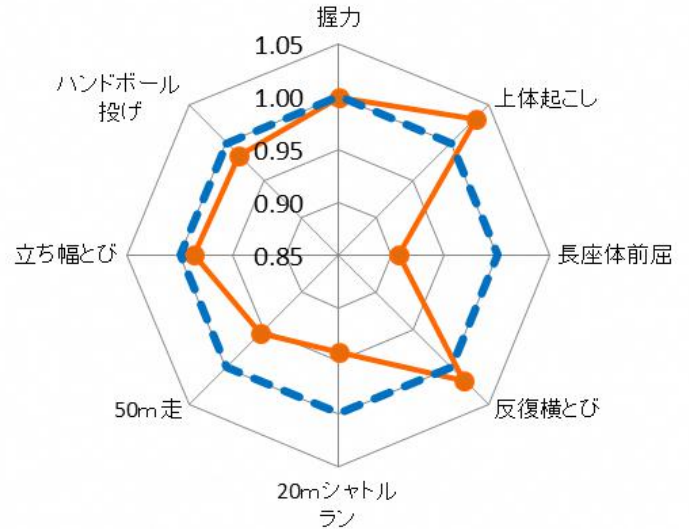
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

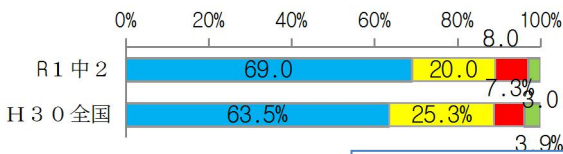
男子 (中2)



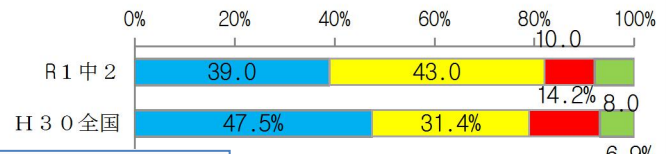
女子 (中2)



運動・スポーツが好きですか(中2男子)



運動・スポーツが好きですか(中2女子)



分析

男子はすべての種目において平均値を下回っている。

特に長座体前屈が大きく下回っており柔軟性が低い。一方で反復横跳びや上体起こしは全国の平均値に近いことから敏捷性が高く、筋力は少しであるがついている。

この結果から全体的に低いため、体力の向上を目標とした様々な運動に取り組んでいく必要があると考えられる。また昨年度よりも下がっていることから、運動能力の低下が考えられる。

女子においては全国平均に近い種目が多いが、50m走と20mシャトルランと長座体前屈が極端に全国平均を下回っている。

この結果から筋力や敏しょう性は高いが、持久力と巧ち性が低いため向上させる必要がある。また昨年度に比べると少し下がっている傾向にあることから、補強運動を充実させて向上させることが必要である。

取組み

男子においては、全体的な向上が求められることから準備運動や補強運動を充実させることで向上させると共に様々なスポーツを行うことで、いろいろな動きをさせる。精神的に幼いところがあり、楽な方法を考えたり、周りに流されたりする部分がある。身体的な成長とともに精神的にも中学2年生として良識ある行動が取れるように指導していく。そしてスポーツの楽しさを教えながら、体力の向上を目指していきたい。

女子においては、全体的に向上させていきたい。準備運動や補強運動を充実させると共に、ボールを扱う等様々なスポーツを行うことで、いろいろな動きをさせる。